

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第299回委員会議事録

1. 日 時 平成23年9月9日(金) 9:30~16:30
2. 場 所 総評会館(東京都千代田区神田駿河台3-2-11)201会議室
3. 出席者36名 (順不同・敬称略)

委員 長： 寺井隆幸(東大)

主 査： 川口雅之(大阪電通大)、児玉昌也(産総研)

幹 事： 稲垣道夫(北大名誉)、安田榮一(東工大)、豊田昌宏(大分大)、
小林知洋(理研)

委 員： 阿久沢昇(東京高専)、飯島孝(新日鐵)、岩下哲雄(産総研)、
蛭谷玄太(コバレントマテリアル)、沖野不二雄(信州大)、鐺木裕
(東京都市大)、川野陽一(新日鐵化学/代理：柴田和哉)、京谷隆
(東北大)、塩山洋(産総研)、柴田大受(原子力機構)、新野仁
(物材機構)、羽鳥浩章(産総研)、福田敏昭(東海カーボン/代理：
鶴田圭子)、向井紳(北大)、山下良(新日本テクノカーボン/代理：
菅原利夫)、原田博文(日本カーボン/代理：柴田博史)

委 員 外： 大竹芳信(明治大)、木村脩七(東工大)、玉井久司(広島大)、
寺西春夫(石川カーボン科学技術振興財団)、夏目勇(東海カーボン)、
西澤節(神戸製鋼)、菱山幸宥(東京都市大)

同伴者他： 斉藤幸恵(東大)、棚池修(産総研)、高木英行(産総研)、込山拓
(東北大)、杉浦友佳(信州大)、猪俣克也(明治大)

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

第298回議事録(案)を承認した。B分科会議事録については以下を修正する。

1行目 西澤節委員 → 西澤節氏

11行目 CO₂ → CO₂

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

該当なし

(b) 300回記念シンポジウムについて

11/17（木）の午後から東大（本郷）の山上会館にて開催。Dr. Hui-Ming Cheng（中国）、Dr. Kap Seung Yang（韓国）、Dr. L. M. Manocha（インド）に加え、日本からは京谷委員（炭素材料学会長）が講演。（添付資料あり）

(c) 量子ビーム融合化利用研究について

量子ビーム融合化利用研究に関する先導的研究開発委員会（学振・平成 22.04.01～25.03.31）に 117 委員会代表として豊田幹事が参加。科研費申請に関して、H23 年度申請の不採択理由が開示されたことを踏まえて再申請を検討。

(d) 産業界委員からの幹事委嘱について

産業界委員へ幹事を委嘱する件に関して、来年 4 月からの着任を前提に炭素協会に人選を依頼中。

(e) 第3回日独合同セミナーについて

岩下委員より、第3回日独セミナーに関してドイツ側と打ち合わせした結果について報告があった（添付資料あり）。日程は Carbon2012(Cracow, Poland)の翌週 6/25 から 2 日間を予定（歓迎行事等除く）。申込締切を 1 月末に予定。日本側参加者を 10~20 名程度見込む。若手研究者の旅費補助に充当するため、尾崎幹事が学振二国間セミナー補助に申請中。これまでドイツ側は工業的・話題中心、日本側がアカデミック中心となっているので双方歩み寄る努力をする。

(f) 次回以降の予定について

H23 第4回（300回） 11月17,18日（17日は記念シンポ）東京大学本郷キャンパス山上会館（会場担当：寺井委員長）

（以下は暫定。11月に確定）

H24 第1回（301回） 4月13日（金）東工大（会場担当：榎幹事）

H24 第2回（302回） 7月13日（金）東京都市大（会場担当：吉田幹事）

H24 第3回（303回） 9月14日（金）東大（会場担当：寺井委員長）

H24 第4回（304回） 11月15日（木）16日（金）産総研（会場担当：児玉幹事）

(2) 分科会報告

- (117-299-C-1) C/C コンポジットの超高温での材料力学的特性に及ぼす炭素繊維の違い
○岩下哲雄¹, 山内宏² (産総研¹, IHI エアロスペース²)
- (117-299-C-2) CVD 法によるメソポーラスシリカ細孔内壁への均一炭素被覆
○込山拓、Castro Muniz Alberto、干川康人、京谷隆 (東北大多元研)
- (117-298-A-1) 無煙炭の黒鉛化およびラマンスペクトル 2D (G') バンドの結晶構造改善による推移
○菱山幸宥¹, 吉田明², 鎗木裕³,
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大工³)
- (117-299-A-2) 多層カーボンナノチューブを用いた天然ゴムコンポジットに関する機械的特性および電気的特性
○杉浦友佳, 野口徹, 藤重雅嗣, 竹内健司, 金隆岩, 遠藤守信
(信州大カーボン化学研究所)
- (117-299-B-1) 炭素材料の官能基に関する問題提起(II) -補足と酸洗浄処理試料-
○西澤節 (元神戸製鋼)
- (117-299-B-2) カーボンナノファイバーの充填密度と体積抵抗率
○安田榮一¹, 赤津隆², 小村伸弥³,
(東工大イノベーション推進体¹, 東工大応セラ研², 帝人融合研³)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：阿久沢委員 (運営委員長) より以下の報告があった。

- (a) 現在会員数 (7/31 現在) 正会員 771 名 学生会員 199 名 合計 970 名
賛助会員 53 社 58 口
- (b) 科学技術講習会 (6 月京都) 参加者 69 名
- (c) スキルアップセミナー (9 月東京) 参加者 41 名
- (d) 10 月セミナー (10 月 14 日東京、教育会館)
「1 日でわかるグラフェン入門 -グラフェンの基礎から合成、評価まで」
- (e) 第 38 回炭素材料学会年会 (名古屋大学豊田講堂) 2011 年 11 月 29 日 (火) ~12 月 1

日 (木)

(f) 第 39 回炭素材料学会年会 (長野市生涯学習センター TOIGO) 2012 年 11 月 28 日
(水) ~11 月 30 日 (金)

(g) 学会 HP 「マイページ」準備できたら会員にパスワードを通知して運用開始予定

(h) 炭素材料学会活性化のためのWG立ち上げ (運営委員の構成、会員増強)

炭素誌関係：沖野委員 (編集副委員長) より以下の報告があった。

(i) 249 号は発行済み、250 号は特集号「ハロゲンと炭素材料」で編集が進行中。

(j) 年会ポスター賞の評価項目「波及効果」を「発表者の理解度」に変更

(k) 別刷料金の改定を行った。

(2) 国際会議関係

(a) Carbon2012 (2012.6.17-22, Crakow, Poland)

(b) 第三回日独セミナー(2012.6.25-26, Berlin, Germany)

(3) その他

(a) 京谷委員より、Carbon 誌への日本からの投稿が減少している旨報告があった (7 月現在、中国・韓国に次ぐ 3 番目となっている)。全体のリジェクト率が 8 割を超えるが、インパクトファクターが 4.89 あり注目度が高いことから是非投稿をお願いしたい。

(b) 岩下委員より、学振法が来年度に JIS 化 5 年目の見直しを迎えるが、「見直し無し」と回答する予定である旨報告があった。

(以上)